

## 先行き慎重な見方

業況DIはほぼ横ばい。先行き慎重な見方残るも、緩やかな回復を見込む。日本商工会議所がまとめた10月の全産業合計の業況DIは、▼16.0と前月から▼0.7ポイントのほぼ横ばい。電子部品、自動車、産業用機械関連の生産や、インバウンドを含む観光需要が引き続き堅調に推移した。他方、公共工事の不服感を指摘する声が聞かれたほか、長雨などの天候不順による客足減少、人手不足の影響拡大、運送費・原材料費の上昇、消費者の低価格志向を指摘する声も多い。中小企業の景況感は総じて緩やかな回復基調が続いているものの、そのマインドには依然として鈍さが見られ、足元ではほぼ横ばいの動きとなっている。

業種別では、建設業は、民間工事は堅調なもの、一部の地域で公共工事の不服感を指摘する声が聞かれ悪化。製造業は、電子部品や自動車、産業用機械関連を中心に堅調に推移する一方、人手不足の影響拡大、鉄鋼などの原材料価格の高止まりが収益を圧迫し、ほぼ横ばい。

卸売業は、運送費上昇分の価格転嫁が遅れているとの声があるもの

の、原材料や部品など、堅調な製造業から受注増が全体を押し上げ改善。小売業は、長雨などの天候不順による足元客足減少に加え、消費者の節約志向を指摘する声も根強く悪化。

一方、好調に推移するインバウンドの恩恵を指摘する声や、一部では高付加価値品の消費持ち直しの動きを指摘する声も聞かれる。サービス業は悪化。最低賃金を含め人件費の上昇や受注機会の損失といった人手不足の影響が足かせとなり、幅広い業種の業況感を押し下げた。

先行きについては、先行き見通しDIが▼14.1(今月比+1.9ポイント)と改善を見込むものの、実体はほぼ横ばい。輸出や設備投資の堅調な推移や株高進行による個人消費の持ち直し、インバウンドを含めた観光需要拡大などへの期待感がうかがえる。他方、人件費の上昇や受注機会の損失など人手不足の影響の深刻化、運送費・原材料費の上昇などを懸念する声も多く、中小企業においては先行きへの慎重な見方が残っている。

(山形商工会議所を含む全国422会議所、3861の企業が調査対象)